

### <清澄フィールドキャンプ 実施報告>

2016年8月29日から9月4日に、関東支部は東京大学千葉演習林・千葉大学海洋バイオシステム研究センターを宿舎として、京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地質学鉱物学教室の御支援・御指導のもとイベントを実施しました。

今年は関東に接近する台風による川の増水を気にしつつ、清和県民の森など主に道路沿いの露頭を中心に観察しながらの立ち上がりでしたが、その後は天気にも恵まれたため、支流の奥深くへも入ることができました。昼間は一日中沢歩きをして、夜は宿舎でルートマップの記載とフィールドノートへの墨入れ、そして柱状図が完成するまでは寝られない（寝かせない）のも恒例行事です。人里離れた非日常!?の空間において肉体的にも頭脳的にも追い込まれる1週間を送ることは、参加者にとって貴重な経験となったことでしょう。

京都大学との共同実習終了後の最後の1泊は、海岸沿いの露頭でこれまでの調査地域内で見られた鍵層との産状の違いを観察しつつ、宿舎を海岸沿いに移して関東支部独自のプログラム(断面図作成)に挑みました。1週間というハードな日程を終えた修了者達は今後、フィールド調査において一味違う活躍ができると確信しております。

開催にあたり、京都大学の山路敦教授、佐藤活志助教など2名のTAを含む地質学鉱物学教室の方々から多大なるご支援を受けました。また、東京大学千葉演習林の方々ならびに千葉大学理学部金川久一教授、亀尾浩司准教授にも機材や宿舎の手配など、実施にあたり多大なるご協力をいただきました。以上の方々のご支援で、今年もフィールドキャンプを成功させることができました。ここに厚く御礼申し上げます。(関東支部幹事 河村知徳 石油資源開発(株))

### <参加者の感想>

これまで泊りがけの実習の経験がなくとても不安でした。はじめは訳のわからないまま、言われたとおりに走向傾斜を測り、地図に書き込んでいただけでしたが、実習の最後には層理面や断層面の広がりイメージできるようになりました。それも指導者の皆様が質問しやすい雰囲気の中、理解できるまで丁寧に粘り強く教えていただいたおかげです。実習中に見られる鍵層が繋がらない原因の断層が見つかったとき、断層が思っていた場所に出てきたときはとても嬉しかったです。自身の反省点としては、現在位置を特定する能力です。地図上の地形で場所を決めてしまいがちなので、支流の沢の上流など地図に表れないカーブが続くようなところでは、位置が分からなくなりました。これからは距離感も鍛えたいと思います。最後になりましたが、地質調査の基礎を学べる機会を設けていただき、ありがとうございました。大変多くの学びがあり、遠方から参加したかがありました。ハチには気をつけて今後の研究に生かしていきたいです。(糸本夏実 同志社大学修士2年)

地質調査の基礎を学びたいと思い今回のフィールドキャンプに参加させていただきました。最初のうちはクリノメーターの使い方や露頭でのスケッチの仕方など、基本的なとこ

ろからわからなかったため、野外実習では常に最後尾で京都大学の方々についていくのに必死でした。今回のフィールドキャンプで地質調査がどういうものなのか、自分に足りないものは何なのかを知ることができました。(森田真之 専修大学4年)

私は、卒業論文のための地質調査の基礎を再確認するために、このキャンプに参加したのですが、結果的に、当初私が思った以上の経験をすることができました。勉強面はもちろんです、特に私の中で影響が大きかったことは、他大学のパワーを感じ取ることができたことです。いつも触れている空気とは全く違う空気感で他大学の仲間と交流することもでき、とても刺激になりました。これから卒業論文を書くに当たってのモチベーションならびに、これからの自分の学生生活に大きな影響を与えたと思っています。(吉原 遥 日本大学4年)

沢歩きや調査道具の使用方法など、基礎的な事項を事前にご指導頂いたので、経験不足の私でも比較的スムーズに調査に臨むことができました。実際の調査では、地層の走向・傾斜の測定、岩相の観察、露頭柱状図の作成など多くの作業をこなしつつ、様々な観察事項に目を向けて考察しながら歩くことの難しさを実感しました。特に、断層による地層の変位をその場の観察によって見極めることには苦労しましたが、予想される場所で追跡していた凝灰岩層が見つかった時の喜びは、調査の疲れを吹き飛ばしてくれました。夜業ではルート柱状図の作成が深夜まで及び、眠気と闘いながらの作業でしたが、時間をかけて取り組むことで調査地の岩相層序について理解することができました。また、ステレオネット投影による褶曲軸の決定や断層条線のトレンド・プランジの投影方法なども丁寧にご指導頂き、知識を深めることができました。土曜日に訪れた勝浦の海岸では有名な黒滝不整合を実際に観察することができ、良い経験になりました。慣れない作業が多く戸惑うことが多々ありましたが、皆様の丁寧なご指導のもと、充実した一週間を過ごすことができました。(佐野喜成 筑波大学3年)

自然地理学・地形学を専攻してきましたが、地形をより理解するには地質の知識を深めなくてはならないと考え参加しました。地質学を主体とした実習は慣れないこともあり、理解が追いつかない時が多々ありましたが、その度に丁寧に教えて頂きました。フィールドでの地質の見方や露頭スケッチ、調査を終えてからの柱状図や地質断面図の作成など全ての作業が新鮮で、貴重で有意義な経験を積むことができました。その中でも本流の沢で観察した鍵層が支流の沢でも発見できた時には調査の醍醐味を感じました。実習を終えてから個人的に沢を歩きました(支部注: 森本氏は演習林の札郷宿舎に泊まって付近の調査を行っています。通常、演習林内の沢に入る場合には申請が必要です)が、その際に走向と傾斜を意識しながら地形、地質を観察できるようになったのは一歩前進したと思いました。今回学んだことを次の機会に活かしていこうと思います。(森本 拓 立正大学修士2)

年)

地質調査は現在の分野にいる限りはどうしても付いて回ってくる事柄だと思い、このイベントへ参加させていただきましたが、如何に自分が今までの大学の授業で「テキトー」にこなしてきたのかということを感じました。調査や作業において遅れをとることが多く、京都大学の学生との練度の差を感じました。それにより先生方や TA の方々に多大な迷惑をおかけしたと思います。またこのフィールドキャンプと切っても切り離せないものとして、ヤマビルの存在があります。ヒルにとって丁度良い湿度だったのもあるのですが、自分は計 6 カ所噛まれてしまいました。靴下や大量のガムテープで対策をしていたつもりでも（露頭での作業に集中しているうちに）上から落ちてきたり、（チェックをかくぐり）服の隙間に潜んでいたヒルに後で噛まれたりなど、対策に終わりはないなと感じましたが、何れにせよ良い経験をさせて頂きました。今後も精進したいと思います。（菅谷 峻 筑波大学 3 年）



関東支部メンバー集合写真（東京大学千葉演習林にて）

左より吉原（日本大）、糸本（同志社大）、森本（立正大）、森田（専修大）、河村（関東支部幹事）、佐野（筑波大）、菅谷（筑波大）